



基礎作業学実習の実習風景



作業療法における「作業」とは、生活のいろいろな動作やお仕事、遊びなど人間が関わる全ての活動を指します。

基礎作業学実習という授業では、活動を実際に体験しながら、活動内容を細かく理解する力や治療者としての分析の視点を学びます。



後期は「革細工」を行いました。体験を通して、学生は、集中力や指先の力が必要だ、工程を分けることが容易だ、など学んでいきます。



前期の授業では「陶芸」も行います。

編み物と木工を行う一年生



こちらは「編み物」。編み物は習得すると応用が簡単です。ただ、はじめて行う学生さんは苦戦しています。



目を数えながら慎重に進めている場面です。



「木工」です。鋸、金槌などを使用するため、とてもダイナミックな作業ですね。「この動きはどの関節を主に使用するのか」など考えていきます。



図面を引く姿も真剣そのもの。もちろん「作業」は趣味活動ばかりではありません。料理を作り工程を考える授業もあります。それはまた別の機会にご紹介します！